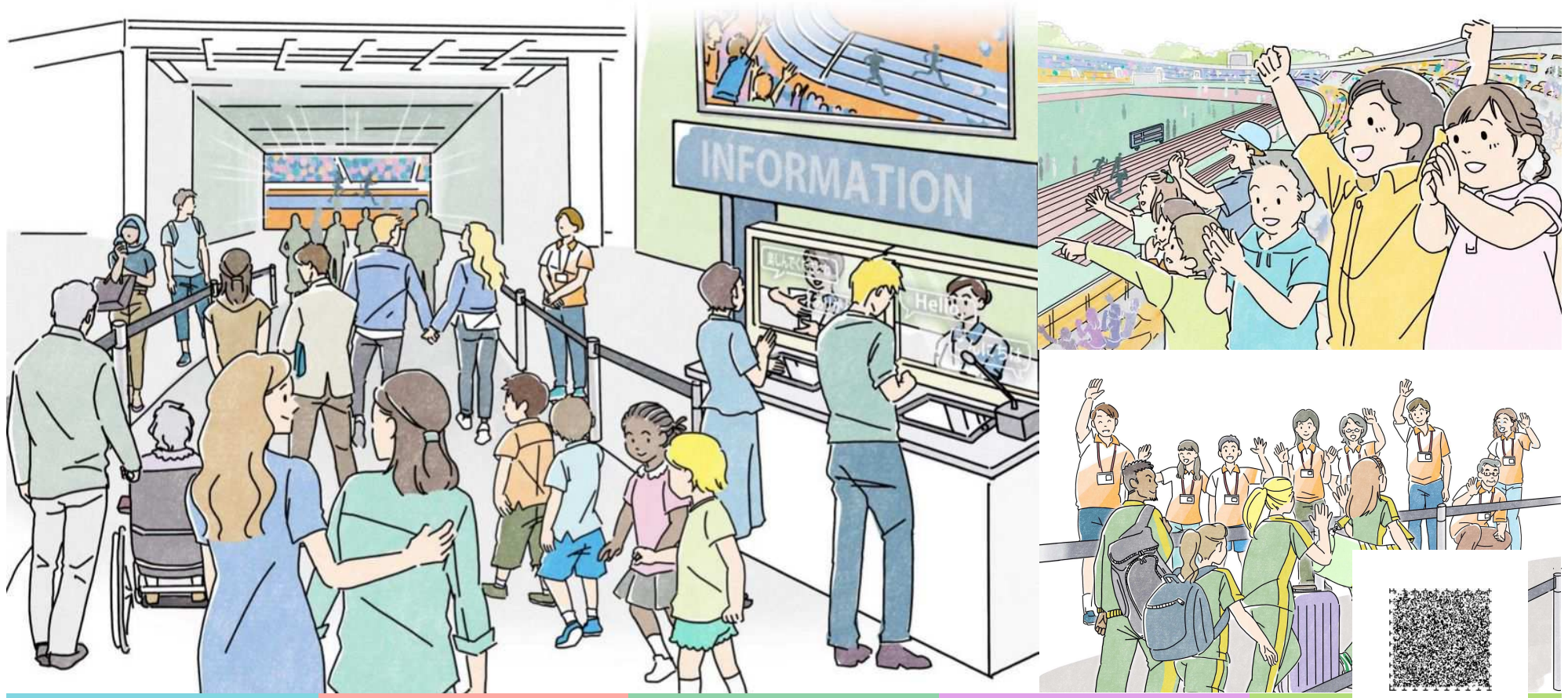




VISION 2025 ACTION BOOK

世界陸上・デフリンピック ビジョン2025 アクションブック



はじめに

2025年、東京で2つの国際スポーツ大会が開催されます。
トップアスリートが集う最高レベルの陸上競技の祭典である、世界陸上競技選手権大会。
デフアスリートによる国際総合スポーツ競技大会である、デフリンピック。

アスリートがもたらす感動と興奮は、次代を担う子供たちの夢と希望に、
両大会を通じたスポーツムーブメントは、都民・国民のウェルネスの向上に、
様々な人々との交流は、互いの違いを認め尊重しあう社会の礎になることでしょう。

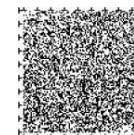
大きな価値をもたらす国際スポーツ大会を盛り上げ、
スポーツの力で、東京の新たな未来を切り拓いていく。
このような視点に基づき、昨年2月、東京都が目指す姿を「ビジョン2025」としてまとめ、
「全ての人々が輝くインクルーシブな街・東京」の実現に貢献するという目標を掲げました。

本書は、この「ビジョン2025」の目標に向かって、
両大会を通じて取り組んでいく方向性や、主な内容などをまとめた指針となります。

東京2020大会のレガシーを、2025年に向けて更に発展させていく
「TOKYO FORWARD 2025」という理念の下、
光り輝く未来に向けて、全力で取り組んでまいります。

令和6年1月26日 東京都知事

小池百合子



陸上の選手として、子供たちの未来につながる走りをする事。

そして結果を出すことが大事。

自分の地元東京で開催できる世界陸上。

一人でも多くの子供たちに見てもらいたい大会にしたい。

サニブラウン アブデルハキーム（陸上／短距離走選手）

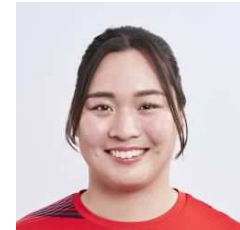


©UDN SPORTS

2025年、東京で新たな歴史の1ページを皆さんと一緒に作れることを楽しみにしています。

そして、少しでも皆さんの心を動かすことができると嬉しいです。

北口 榛花（陸上／やり投選手）



周囲の方の応援やサポートがあってこそ自分です。日本初開催のデフリンピック。
東京の満員の会場で、その感謝の気持ちを結果で示したいです。応援よろしくお願いします。

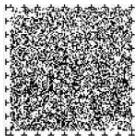
小倉 涼（デフ空手選手）



東京2025デフリンピックを機に、デフスポーツを知ってもらい、
そして聴覚障害者について理解してもらえたら嬉しいです。
観客の皆さんを巻き込みながら、一体となって金メダルを取れるよう頑張ります。

一緒に盛り上げていきましょう！！

岡田 拓也（デフサッカー選手）



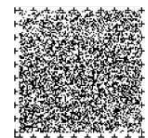
Contents

はじめに …… 001
Road to 2025 …… 004
基本的な考え方 …… 006
推しスポーツ Project …… 008

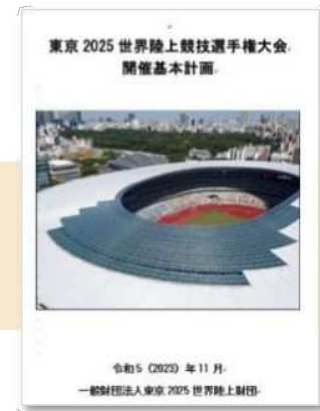
【10のAction】

- 1 **みんなが つながる** …… 010
 - ① 大事な情報、伝える工夫
 - ② デジタルで拓く東京の未来
- 2 **世界の人々が 出会う** …… 014
 - ③ 芸術文化に触れ、感じる
 - ④ 世界に東京の魅力をPR
- 3 **子どもたちが 夢をみる** …… 018
 - ⑤ 2025 for キッズ
 - ⑥ 2025 with キッズ
- 4 **未来へ つなぐ** …… 022
 - ⑦ みんなで守る、みんなの環境
 - ⑧ 共に生きる未来を創る
- 5 **みんなで 創る** …… 026
 - ⑨ Make it together 2025
 - ⑩ 知って、楽しんで、応援しよう！

Topic 様々な取組のご紹介 …… 030



Road to 2025



(一財)東京2025世界陸上財団策定

(一財)全日本ろうあ連盟、東京都、
(公財)東京都スポーツ文化事業団の三者で策定

ビジョン2025

都政の羅針盤である「未来の東京戦略」を踏まえ、両大会を通じて都が目指す姿をまとめた基本方針

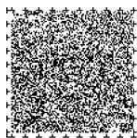
みんなが つながる

世界の人々が 出会う

子どもたちが 夢をみる

未来へ つなぐ

みんなで 創る



開催基本計画

【東京2025世界陸上】

- ◆多くの人々に夢や希望を届ける
- ◆今後の国際スポーツ大会のモデルを示す

【東京2025デフリンピック】

- ◆デフスポーツの魅力や価値を伝え、人々や社会とつなぐ
- ◆世界に、そして未来につながる大会へ
- ◆“誰もが個性を活かし力を発揮できる” 共生社会の実現

全ての人が輝くインクルーシブな街・東京へ



ビジョン2025 アクションブック (本書)

両大会を通じて都が目指す姿に向けた、
取組の方向性や主な内容などをまとめた
2025年への取組指針



◆世界のトップアスリートが集う陸上競技大会 東京2025 **世界陸上**

日程：2025年9月13日～21日
会場：国立競技場ほか

◆デフアスリートによる国際総合スポーツ競技大会 東京2025 **デフリンピック**

日程：2025年11月15日～26日
会場：主に都内会場
(一部競技は福島県・
静岡県で開催)



基本的な考え方

3 つのConcept

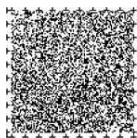
- ◆ **東京2020大会のレガシー**を継承・発展
- ◆ 両大会一体となって**ウェルネスの向上や社会変革**を推進
- ◆ 2025年を機に、東京に**新たなレガシー**を創出

東京2020大会を機にした進化は
素晴らしかった。
人々の心が変わることで、
社会も変えることができるのです。

Andrew Parsons
(アンドリュー・パーソンズ/国際パラリンピック委員会会長)



東京2020大会を機に、
東京のバリアフリーは大きく進展



Tips

2025年ってどんな年？

2025年は、様々な面で重要な意味をもつ年。
例えば、国連で採択されたSDGs「行動の10年」では、2025年がその中間年に当たります。
日本においても、2025年には国民の約3人に1人が65歳以上、約5人に1人が75歳以上となり、社会構造が大きく変化すると見込まれています。
世界のトップアスリート・デフアスリートが集う両大会。障害のあるなしや年齢・性別・国籍にかかわらず楽しめる「世界共通の人類の文化」スポーツを通じて、健康づくりや共生社会への歩み、持続可能性などの取組を進め、東京の明日へつなげていきます。

Sports

+

10

プロジェクト – 両大会を機にウェルネスを向上

【スポーツの価値を再認識】 – 推しスポーツProjectの展開



のAction – 両大会を社会変革の推進力に

【みんながつながる】 – ユニバーサルコミュニケーションの促進

Action

- ①大事な情報、伝える工夫
- ②デジタルで拓く東京の未来

【世界の人々が 出会う】 – 「TOKYO」の魅力発信

Action

- ③芸術文化に触れ、感じる
- ④世界に東京の魅力をPR

【こどもたちが 夢をみる】 – 子供たちの大会への参画

Action

- ⑤2025 for キッズ
- ⑥2025 with キッズ

【未来へつなぐ】 – 持続可能性の取組

Action

- ⑦みんなで守る、みんなの環境
- ⑧共に生きる未来を創る

【みんなで創る】 – 力を合わせて大会を形作る

Action

- ⑨Make it together 2025
- ⑩知って、楽しんで、応援しよう！



デジタル技術を活用した
コミュニケーションを体験できるカフェ



世界陸上ブダベスト大会での東京PR

スポーツの力で「全ての人々が輝くインクルーシブな街・東京」への歩みを加速

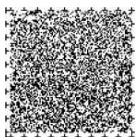


推し[※]スポーツ Project

- ◆世界陸上・デフリンピックの開催は、スポーツへの関心を高め、身体を動かす喜びなど**スポーツの価値を再認識**する絶好の機会
- ◆この好機を捉え、東京全体をフィールドとして「する・見る・支える」の視点から**様々なスポーツに親しむ機会を創出**
- ◆スポーツの魅力に触れる中で、「**都民一人ひとりの好みや特性に合ったスポーツの楽しさ（推しスポーツ）**」を発見してもらえるように支援



一人ひとりが継続的にスポーツへ関わることにより、心身の健康や生き生きとした暮らしの実現など、**都民の健康長寿・ウェルネスの向上を推進**



世界陸上

デフリンピック

世界陸上・デフリンピックを機に一人ひとりに「推しスポーツ」を

Point

- ・統一のプロジェクト名称を冠し、各種イベント情報を一元的に発信
- ・デジタル技術の活用やバリアフリーへの対応など、障害のあるなしなどにかかわらず、誰もがスポーツを楽しめるように
- ・他のスポーツイベント実施主体などとも積極的に連携しながら、都の既存事業についても最大限活用



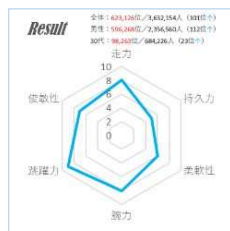
※ 推し：「人に薦めたいほど気に入っているもの」の意味で使用

「推しスポーツ」の発見・実施を後押しする **3** つの取組

推しスポーツで健康に

1 ≪ 東京スポーツドック ≫

体力診断を通じて自身の体力や健康状態を知ってもらい、一人ひとりの適性に沿った運動指導と運動計画を提供



すればわかる、そのスポーツの面白さ

2 ≪ Let's play it ! ≫

プロスポーツチームや区市町村などと連携しながら、一人ひとりにとって「初めての競技体験」に、楽しみながら参加できるよう支援



色々なスポーツの体験を子供たちに

3 ≪ キッズアスリートプログラム ≫

陸上トップアスリートなどとの交流や、子供（親子）向け陸上教室など、スポーツを通じて子供の成長を支援



その他、関連する取組

東京ならではのスポーツ体験

- ・様々な自転車のイベント（GRAND CYCLE TOKYO）や東京マラソンの共催など、東京が有する資源を有効活用し、多くの人を楽しめる魅力的なスポーツコンテンツを提供



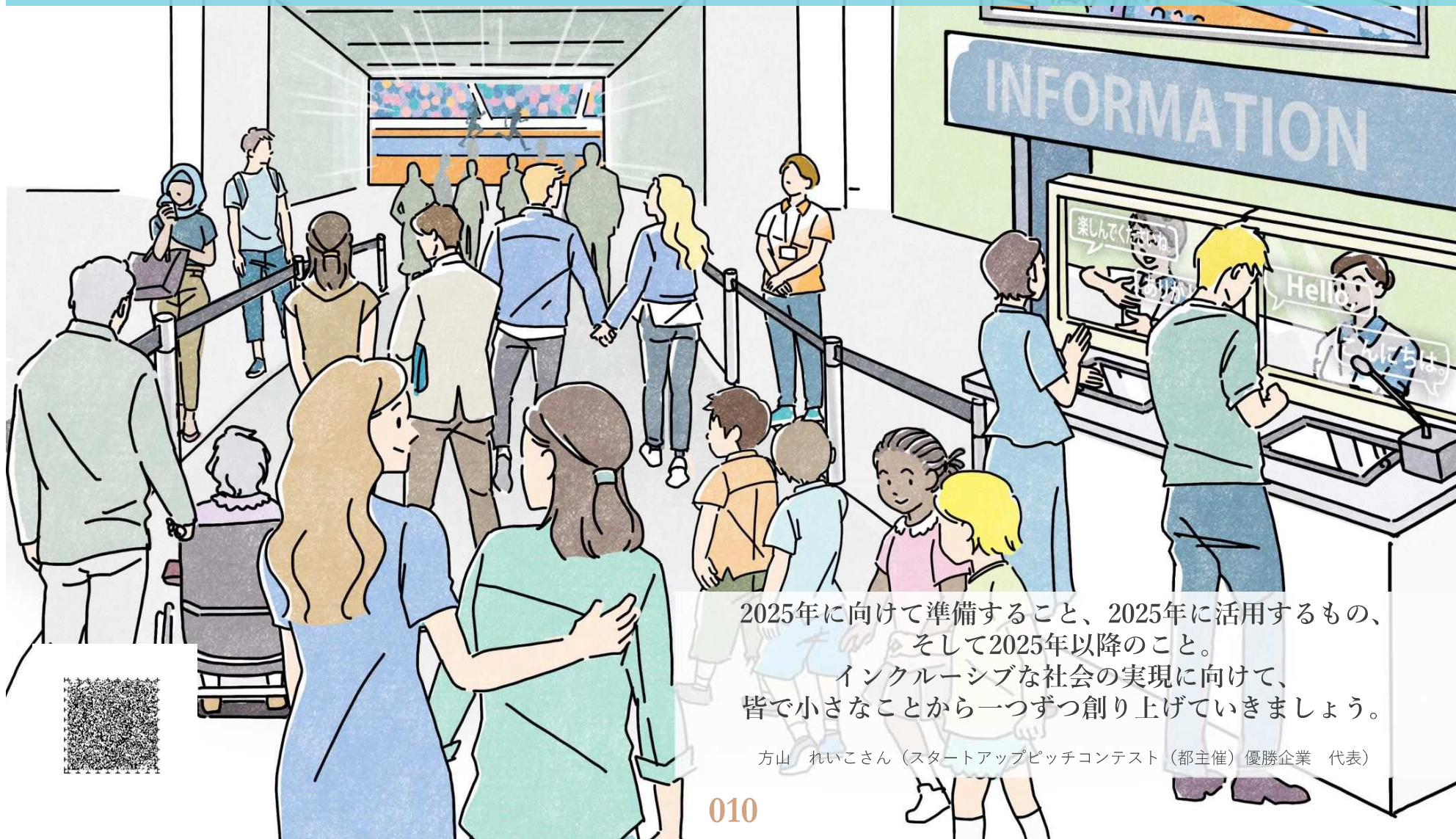
©東京マラソン財団

誰もがスポーツを楽しめるように

- ・バリアフリー対応のコースやアプリを活用し、障害者の日常的なウォーキングを促進
- ・パラスポーツの応援プロジェクトの一環として、障害のあるなしにかかわらず参加できる大会などを開催

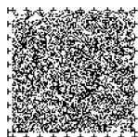


みんなが つながる



2025年に向けて準備すること、2025年に活用するもの、
そして2025年以降のこと。
インクルーシブな社会の実現に向けて、
皆で小さなことから一つずつ創り上げていきましょう。

方山 れいこさん（スタートアップピッチコンテスト（都主催）優勝企業 代表）



『いつでも・どこでも・誰とでも』 つながる街・東京へ

日々進化する様々な技術を両大会で活用することに加え、都立スポーツ施設へのアクセシビリティ設備整備など、誰もが暮らしやすい社会に向けた取組を推進します。

また、民間企業等と連携した新たな技術の開発や、区市町村などにおける技術活用の促進、国内外への発信などを通じて、ユニバーサルコミュニケーション技術を社会に浸透させていきます。



Action1 大事な情報、伝える工夫

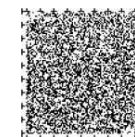
東京2020大会で使用された技術を含めて、様々な技術を両大会で活用することに加え、都立スポーツ施設へのアクセシビリティ設備整備など、誰もが暮らしやすい社会に向けた取組を推進します。

P.12

Action2 デジタルで拓く東京の未来

ユニバーサルコミュニケーション技術を社会に浸透させていくため、民間企業等と連携した新たな技術の開発や、様々な機会を捉えた技術実証や活用促進、国内外への発信などに取り組みます。

P.13



Action1 大事な情報、伝える工夫

【取組の概要】

東京2020大会で使用された技術を含めて、様々な技術を両大会で活用することに加え、都立スポーツ施設へのアクセシビリティ設備整備など、誰もが暮らしやすい社会に向けた取組を推進



国際手話
「ありがとう」

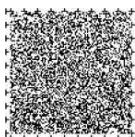
【取組の詳細】

◆大会における情報保障

- ・競技会場での案内や掲示などにビジョンやサイネージを活用し、「やさしい日本語」など誰もが分かりやすい方法で表示
- ・東京2020大会で使用された多言語同時翻訳などの技術を両大会で活用するとともに、国際手話人材の育成にも取り組み、選手や関係者の円滑なコミュニケーションをサポート

◆誰もが暮らしやすい社会へ

- ・都立スポーツ施設に集団補聴設備などのアクセシビリティ設備を整備するとともに、日比谷公園をケーススタディとして、都立公園における窓口対応などを支援する音声認識システムの導入や、新たな情報ツールの活用を検討
- ・誰もが使いやすい駅づくりの実現に向け、ユニバーサルコミュニケーション技術の導入支援など、先進技術の導入を促進する仕組みづくりや都民にわかりやすい情報発信を実施
- ・聴覚障害者の生活利便性向上のため、スマートフォンの活用支援や、都営地下鉄車内におけるドア開閉表示灯の設置拡大などの取組を実施
- ・手話言語の普及促進や都庁舎などでの遠隔手話対応、国際福祉機器展などにおけるPR、都内公共施設バリアフリー情報の発信などの取組を展開



【スケジュール】

	R5	R6	R7
大会での情報保障	情報保障の充実にに向けた検討・準備 国際手話人材の育成		様々な方法や技術を活用し、両大会を運営
誰もが暮らしやすい社会へ	駅における先進技術活用に関する調査	駅におけるUC技術導入支援 更なる仕組みの検討や情報発信	日比谷公園でのケーススタディ
		都内自治体におけるスマートフォン活用支援プログラムの実施	都立スポーツ施設へのアクセシビリティ設備整備、福祉機器展でのPR、バリアフリー情報の発信など

【大会後のレガシー】

- 両大会をモデルとして、今後のスポーツ大会における情報保障が充実
- 誰もがより簡単に、様々な情報を受け取れる社会の実現に向けた歩みが加速

Action2 デジタルで拓く東京の未来

【取組の概要】

民間企業等と連携した新たなユニバーサルコミュニケーション（UC）技術の開発や、様々な機会を捉えた技術実証や活用促進、国内外への発信などを通じて、デジタルを活用したUC技術を社会へ浸透



UC技術の例
(音声翻訳・文字化し、リアルタイムで透明ディスプレイに表示)

【取組の詳細】

◆民間企業等と連携した新たな技術の開発

- ・スタートアップピッチコンテスト優勝企業と連携し、競技音を擬音で表示する技術を開発
- ・「西新宿先端サービス実装・産官学コンソーシアム」において、スマートグラス上に発話内容などを表示する技術を開発

◆様々な機会を捉えた技術の実証や活用促進

- ・東京2025デフリンピック2年前の取組「みるカフェ」（デジタル技術で言語を見える化したカフェ）の実施や、スマートグラスによる聴覚障害者向けサービスの実証
- ・都庁舎や都営地下鉄駅の窓口などにUC技術を導入
- ・区市町村や駅などにおけるUC機器導入を支援

◆国内外への発信

- ・両大会でUC技術を活用している様子を広く発信
- ・デフリンピックにおける選手同士の交流や、都民・国民が大会を体感できる拠点となる「デフリンピックスクエア」において、技術の展示やPRを実施



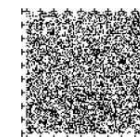
競技音を擬音で表示する技術

【スケジュール】

	R5	R6	R7
技術開発	民間企業などと連携した技術開発		開発した技術を活用・PR
技術の実証・PR	イベントなどの場を活用した技術の実証やPR 都庁舎窓口などへのUC技術導入 区市町村などにおけるUC機器導入支援		
大会時の活用状況の発信	競技会場やデフリンピックスクエアに● おける活用・発信		

【大会後のレガシー】

- UC技術の有用性や将来性などが認知され、企業の技術開発などが活発化
- 国籍や障害などにかかわらず、誰もが分け隔てなくコミュニケーションを取ることができ、技術が普及



せ かい ひと びと で あ
世界の人々が 出会う



世界中から訪れる方々と手話言語や様々な方法で語り合うことで、
遠くにいるのにわかりあえる、そんな出会いがたくさん生まれることでしょう。
文化が耕され、出会いによって新たに芽吹く、
そんな景色が待ち遠しいです。

和田 夏美さん（手話通訳士／インタープリター）

何度でも訪れたいくなるTOKYOへ

東京2020大会のレガシーを継承・発展させた新たな文化プログラムの展開や、国内外から大きな注目が集まる両大会の機会を捉えたPRを通じて、東京の持つ多彩な魅力を伝えていきます。

TokyoTokyo Old meets New

Action3 芸術文化に触れ、感じる

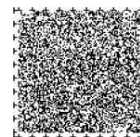
両大会が開催される2025年に向けて3つのアートプロジェクトを展開するとともに、誰もが芸術文化を楽しめる環境の整備を進めていきます。

P.16

Action4 世界に東京の魅力をPR

大会関連イベントなどで東京産食材や都伝統工芸品を活用するとともに、両大会開催1年前など、様々な機会を捉えた東京のプロモーションを展開していきます。

P.17



Action3 芸術文化に触れ、感じる

【取組の概要】

より多くの人々が芸術文化に親しむ環境が整い始めるなどのレガシーを残した、東京2020大会の文化プログラム。これを継承・発展させた新たな取組を展開し、東京の持つ芸術文化の魅力発信や共生社会の実現に向けた歩みを進めるとともに、両大会を盛り上げ



アートプロジェクトのイメージ

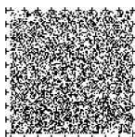
【取組の詳細】

◆2025年に向けて3つのアートプロジェクトを展開

- ・誰もが気軽に芸術文化を楽しめ参加できる取組として、「まつり」をテーマとしたイベントを開催。様々なまつりの見どころを凝縮したパフォーマンスなどを披露することで、一体感を創出
- ・「聴覚障害者にとっての音楽」をテーマにした舞台を創作。また、きこえる人ときこえない人が相互理解を重ねながら創作する過程を記録し、協働のモデルケースとして発信
- ・東京2020パラリンピック開会式のスタッフ・キャストが集い、多様な個性が共に生きる社会への想いを舞台化

◆芸術文化へのアクセシビリティ向上

- ・誰もが芸術文化を楽しめる環境を整備するため、公演などの鑑賞を支援するツールの導入や、情報保障付きプログラムの拡充などを推進
- ・民間文化施設などでの鑑賞サポート提供経費への助成事業を創設。鑑賞サポートの提供ノウハウなどに関する講座の開講や、専門団体などと連携した相談対応も実施
- ・都立文化施設や助成事業における取組内容や成果を周知・発信



【スケジュール】

	R5	R6	R7
アートプロジェクト	企画内容検討	実施内容の調整やPRなど イベントの開催● （「まつり」イベントは9月、 その他は11月予定）	
アクセシビリティ向上	企画内容検討	鑑賞を支援する環境整備 助成関連事業の開始 取組内容や成果の周知・発信	

【大会後のレガシー】

- 芸術文化へ親しみを持つ人が増加するとともに、障害のあるなしにかかわらず芸術文化活動の実施事例が蓄積
- 鑑賞サポートの提供が社会全体で増加するとともに、ノウハウの蓄積や人材育成などが進み、継続的な取組に向けた土台が構築

Action4 世界に東京の魅力をPR

【取組の概要】

国内外から大きな注目が集まる両大会開催の機会を捉え、食や伝統文化といった東京の多彩な魅力を効果的に発信



【取組の詳細】

◆大会関連イベントなどでのPR

- 東京2025世界陸上における国内外メディア向け説明会や、東京2025デフリンピックの選手団団長セミナー（大会1年前に、各国選手団の団長が集まる会議）などにおいて、東京産食材や都伝統工芸品、東京の観光資源などのPRを展開

◆様々な場面で東京をプロモーション

- 世界陸上ブダペスト大会などで東京の魅力を発信
- 国際スポーツ大会が開催される日本各地の会場周辺の観光情報やスポーツ体験情報などを発信するホームページ「Japan Sports Journey」内へ、両大会の特設ページを設置
- 両大会1年前の機会を捉えたオンラインメディア・機内誌などへの広告出稿や、観戦客来訪に合わせた観光情報の発信、大会開催に合わせたメディアツアーなどを展開



ブダペスト大会でのPR



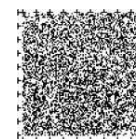
東京産食材の提供イメージ

【スケジュール】

	R5	R6	R7
東京の 魅力発信	<ul style="list-style-type: none"> ●世界陸上ブダペスト大会でのPR メディア向け説明会や● 選手団団長セミナーでのPR 	<ul style="list-style-type: none"> ●機内誌などへの広告展開 (両大会1年前) 	<ul style="list-style-type: none"> 「Japan Sports Journey」 両大会特設ページ 大会開催時の都市PR●

【大会後のレガシー】

- 両大会を通じて東京の持つ多彩な魅力を発信し、東京産食材や都伝統工芸品の需要拡大、訪都旅行者数の増加に貢献

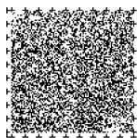


ゆめ こどもたちが 夢をみる



今の自分の夢は「足を速くする」。
とても単純に聞こえますがとても難しいことであり、
極めれば極める程0.1秒を縮めるために何年と掛かるのです。
多様性のある素晴らしい場で戦い、勝ちたい、メダルを獲りたいと思います。

榎橋 径徒さん（デフ陸上ジュニア選手）



夢と希望にあふれた次世代の東京へ

子供たちが大会を通じて多くのことを学び、成長することをサポートしていけるよう、学校における学びの機会を設けるとともに、大会にとって大切な役割に子供たちが参画するなど、様々な取組を展開していきます。



Action5 2025 for キッズ

イラストを活用した両大会の特設ホームページなど、子供たちに大会の意義や魅力、スポーツの素晴らしさなどを伝える取組を進めるとともに、ろう学校をはじめ、学校教育における様々な場面で学びを提供します。

P.20

Action6 2025 with キッズ

両大会のシンボルとなる大会ロゴや大会エンブレムのデザイン、選手入場時のエスコートキッズなど、大会にとって大切な役割に参画する機会を設け、子供たちが大会の一員として活躍します。

P.21



Action5 2025 for キッズ



両大会の特設ホームページ

【取組の概要】

子供たちが大会を通じて多くのことを学び、成長することをサポートしていただけるよう、大会関連イベントやスポーツイベントにおけるコンテンツの充実、デフアスリートを招いた学校での学びの機会など、様々な取組を展開

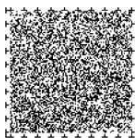
【取組の詳細】

◆スポーツの素晴らしさを子供たちに

- イラストを活用した特設ホームページやSNS用のスタンプ、大会関連イベントでの体験・体感コンテンツなど、子供たちをはじめ、誰もが両大会の魅力を感じられる取組を展開
- 子供とアスリートとの交流会や、子供向け陸上教室など、子供が様々なスポーツを体験できるイベントなどを展開

◆学校における学び

- ろう学校にデフアスリートを招き競技体験や講演などを実施
- 東京2025デフリンピック開催時の、海外の聴覚障害者とのコミュニケーションや、選手・ボランティアなどとしての参加を見据え、ろう学校で国際手話などのコミュニケーションスキルを身につけるための特別授業を実施
- 盲学校でのパラスポーツやろう学校でのデフスポーツを実施するため、各校における競技器具を充実
- 聴覚障害やデフリンピックの理解に関する映像教材を作成し、都内公立学校に配信
- 学校が希望する体験機会を提供する「笑顔と学びの体験活動プロジェクト」に、両大会に関連するプログラムを導入



【スケジュール】

	R5	R6	R7
大会などを通じた取組	大会特設HPや大会関連イベントでの体験・体感コンテンツなど		
学校を通じた取組	ろう学校での競技体験・講演・特別授業など		
	映像教材作成	学校での活用（～R8年度）	
	実施	体験活動プロジェクト 充実（大会関連含む）	

【大会後のレガシー】

- 次代を担う子供たちが、大会を通じて、スポーツの素晴らしさや、障害のあるなしなどにかかわらず互いに尊重しあうことの大切さ、多様性などを学び、健やかに成長

Action6 2025 with キッズ

【取組の概要】

両大会のシンボルとなる大会ロゴや大会エンブレムのデザイン、選手入場時のエスコートキッズなど、大会にとって大切な役割に多様な子供たちが参画し、大会の一員として活躍



(左)
東京2025デフリンピック
大会エンブレム

(右)
東京2025世界陸上
ロゴデザイン・
ロゴ選定委員の公募
(©2023一般財団法人
東京2025世界陸上財団)

【取組の詳細】

◆子供たちと創る大会

- 東京2025世界陸上のロゴコンセプトにジュニア陸上選手の思いを反映し、そのコンセプトを基にデザインを公募。また、東京2025デフリンピックの大会エンブレムを、国内唯一の聴覚障害者・視覚障害者のための国立大学である筑波技術大学の学生がデザインし、都内中高生の投票により決定するなど、大会のシンボル制作に子供たちが参画する取組を展開
- 両大会で展開していく取組などについて、子供たちの意見も聞きながら検討

◆子供たちと大会を盛り上げる

- 大会関連イベントなどで集めた子供たちからのメッセージを選手に届けるとともに、会場での盛り上げなどに活用
- 都内や被災地の子供たちが、会場で観戦する機会を設ける
- 選手入場時のエスコートキッズやメダルセレモニーの役割を子供たちが担うなど、子供や若者の参画を幅広く展開



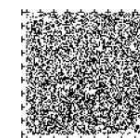
東京2025デフリンピック
大会エンブレム投票グループワーク
発表イベント

【スケジュール】

	R5	R6	R7
様々な参画		<p>→ ● デザイン発表 (5月予定) 世界陸上ロゴデザインの公募・選定</p> <p>● デフリンピック 大会エンブレムの決定</p> <p>→ 大会関連イベントなどを通じた 子供たちから選手へのメッセージ</p> <p>● 大会開催時の参画 (子供たちによる会場での観戦など)</p>	

【大会後のレガシー】

- 大会にとって大切な役割を担うことや、アスリートと特別な時間を共有するなど、大会ならではのまたない経験を通じて自信や勇気を培った子供たちが、明日の東京を創っていく



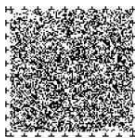
みらい

未来へ つなぐ



英語を覚えるように、フランス語を覚えるように、
手話言語を少しでも習得することで一気に世界が広がる、そんな感覚を覚えています。
人と人の輪を繋いでいくことは大変楽しいです。
2025年、みんながともにスポーツとコミュニケーションを楽しむ社会の実現に向けて、
私と一緒に一歩踏み出してみませんか？

長濱 ねるさん（東京2025デフリンピック応援アンバサダー）



たくさんの国際スポーツ大会が楽しめる街へ

両大会が「未来へつながる大会」として、今後の国際スポーツ大会のモデルとなるよう、エコでコンパクトな大会の実現や、共生社会に向けた効果的な発信、多様な人々との交流イベントなどの取組を幅広く展開していきます。



Action7 みんなで守る、みんなの環境

両大会を環境に配慮したエコでコンパクトな大会にするため、省エネルギーの徹底や使い捨てプラスチックの削減などに取り組むとともに、それらの取組を広く国内外へ発信していきます。

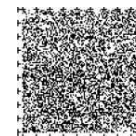
あわせて、大会における暑さ対策を推進していきます。

P.24

Action8 共に生きる未来を創る

国籍や障害のあるなしなどにかかわらず、誰もが互いの違いを認め、尊重しあう共生社会の実現に向け、「東京2025デフリンピック応援アンバサダー」を通じた発信や、障害のあるなしにかかわらず参加できるイベントなどを展開します。

P.25



Action7 みんなで守る、みんなの環境



【取組の概要】

両大会を環境に配慮したエコでコンパクトな大会にするため、省エネルギーの徹底や使い捨てプラスチックの削減などに取り組むとともに、それらの取組を広く国内外へ発信。あわせて、暑さ状況に関する調査結果などを踏まえた、大会における暑さ対策を推進

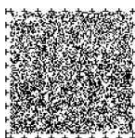
【取組の詳細】

◆環境への配慮

- ・省エネルギーの徹底や再生可能エネルギーの活用、3R（リデュース・リユース・リサイクル）の推進、使い捨てプラスチックやフードロスの削減などに取り組む
- ・既存の施設や物品を最大限活用するとともに、新たに調達が必要な場合でもリースやレンタルを基本とする
- ・大会における象徴的な取組などを、広く国内外へ発信

◆暑さ対策

- ・路上競技沿道における観客の熱中症予防に向け、必要な対策を検討し、大会における暑さ対策を推進



【スケジュール】

	R5	R6	R7
環境への配慮	→ 各種取組に関する 詳細内容などの検討・調整		大会における 取組の徹底・ 発信
暑さ対策		→ 調査実施・ 計画作成・ 関係者調整など	大会における暑 さ対策を推進

【大会後のレガシー】

- 大会での取組や発信を環境配慮に関する意識啓発や気運醸成につなげ、持続可能な社会への歩みを加速
- 大規模イベントにおける各種取組を通じたノウハウや知見の蓄積

Action8 共に生きる未来を創る

【取組の概要】

国籍や障害のあるなしなどにかかわらず、誰もが互いの違いを認め、尊重しあう共生社会の実現に向け、東京2020大会を契機としたハード・ソフト両面からのバリアフリーの取組や現状も踏まえ、効果的な取組を幅広く展開



東京2025デフリンピック応援アンバサダー
(左から長濱ねるさん、川俣郁美さん、KIKI、朝原宣治さん)

【取組の詳細】

◆共生社会の大切さを発信

- デフスポーツや手話言語に理解のある人などを「東京2025デフリンピック応援アンバサダー」として起用するとともに、デフアスリートの活躍や聴覚障害者の社会活動などを紹介
- 子供を含めた幅広い世代が手話言語に親しみを持てるよう、手話単語にふれることができる動画や、デフリンピック学習ハンドブックなどを制作
- 心のバリアフリーに関するポスターコンクールや、心のバリアフリーに取り組む企業を「サポート企業」として登録・連携する取組などを展開
- 都内在住の外国人などに役立つ情報を発信する「東京都多文化共生ポータルサイト」を運営

◆交流イベントなどの展開

- 「みるカフェ」や、障害のあるなしにかかわらず一緒にスポーツを楽しむアスリート交流会など、多様な人々が広く参加できる取組を展開
- ファミリー層や若者が集う商業施設などで、障害者理解に関する啓発イベントを開催するとともに、都立大学と連携して、共生社会の実現に向けた意識調査などを実施

【スケジュール】

	R5	R6	R7
共生社会の発信	応援アンバサダー、特設ホームページ ハンドブックなどの制作・活用 心のバリアフリーに関する各種取組 多文化共生ポータルサイトの運営		
交流イベントなど	●みるカフェ	●大会1年前の取組	●アスリート交流会
	啓発イベント、意識調査など		

【大会後のレガシー】

- 多様な人々の想いに触れたり、異なる生活や文化について学ぶことに加え、実際に交流することなどを通じて相互理解が一層進み、共生社会実現への歩みが加速



みんなで ^{つく} 創る



私たちの笑顔の活動は、大勢の参加者の素敵な思い出の一つに。
そして、それが私たちボランティアの大きな達成感に。
世界からのアスリートや応援・観戦者と触れ合う機会を、
ボランティア活動で一緒に楽しみましょう。

西野 俊治さん（東京2020大会シティキャスト・フィールドキャスト）

スポーツを通じてつながる街・東京へ

観客の応援やボランティアのおもてなしは、大会を支える大切な要素です。

多くの都民・国民に大会に参加してもらえるよう、ボランティアなどの仕組みづくりや大会の盛り上げに向けた取組を進め、みんなで力を合わせて「私たちの大会」を創っていきます。



Action9 Make it together 2025

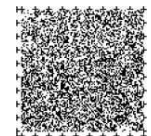
東京2020大会を通じて広がったボランティア文化を、両大会で継承・発展させていくとともに、様々な人々と一緒に大会を創りあげていくための取組や仕組みづくりを進めます。

P.28

Action10 知って、楽しんで、応援しよう！

多くの都民・国民に大会に参加してもらえるよう、大会やスポーツを盛り上げる取組を進めるとともに、様々な主体やイベントなどと連携しながら、大会への関心を高める取組を幅広く展開していきます。

P.29



Action9 Make it together 2025

【取組の概要】

東京2020大会を通じて広がったボランティア文化を、2025年の両大会で継承・発展するとともに、アスリートや障害のある方といった当事者をはじめ、子供たちや企業など、様々な人々と一緒に「私たちの大会」を創出



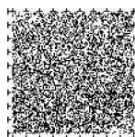
【取組の詳細】

◆ボランティア文化の継承・発展

- 東京ボランティアレガシーネットワーク (VLN) などを通じて、幅広い層に訴求するコンテンツや、ボランティア同士の交流・つながりを深める場を提供
- 障害のあるなしや年齢、国籍などにかかわらず、多様な人々が大会のボランティアとして活躍できる機会を提供

◆様々な人々と一緒に創る大会

- デフアスリートやデフ競技団体の活動などを支援し、大会での活躍を後押し
- 大会を支える人々の努力や、聴覚障害者の社会活動の様子などを両大会の特設ホームページで発信
- 大会のシンボルとなる大会ロゴや大会エンブレムを、子供たちや当事者をはじめとした様々な人々と一緒に制作
- デフスポーツや手話言語に理解のある人などを「東京2025 デフリンピック応援アンバサダー」として起用
 - 最新の技術を活用し、重度障害などがある人も大会へ参画
 - 寄附やクラウドファンディングのPRなど、多くの人々が参画しやすい環境を整える



【スケジュール】

	R5	R6	R7
ボランティア関係の取組	VLNの運用やイベントなどの開催 多様な人々がボランティアとして活躍 ●		
様々な人々と一緒に創る	デフアスリートなどへの支援 応援アンバサダーや特設ホームページによる発信 → ●デザイン発表 (5月予定) 世界陸上ロゴデザインの公募・選定 ●デフリンピック 大会エンブレムの決定		

【大会後のレガシー】

- 東京2020大会で広がったボランティア文化の発展により、一人ひとりが互いに支えあう社会づくりがさらに進捗
- デフスポーツの普及や競技レベルの向上が進むなど、デフスポーツの振興に貢献
- 大会を通じて、寄附文化が社会に一層浸透

Action10 知って、楽しんで、応援しよう！

【取組の概要】

多くの都民・国民に大会に参画してもらえよう、大会の歴史や特徴、魅力などを分かりやすく伝えるとともに、様々な主体やイベントなどと連携しながら、大会への関心を高める取組を幅広く展開



区市町村主催イベントでの連携の様子

【取組の詳細】

◆大会やスポーツで盛り上がる

- ・大会への注目度が高まる開催1年前の節目などの機会を捉え、様々な広報や気運醸成イベントなどを展開
- ・アスリートと子供たちとの交流、デフリンピックの競技体験など、実際に大会の特徴や魅力を感じられる取組を実施
- ・大会の特設ホームページや、大会エンブレムなどを用いた様々なPRツールなどを通じて、大会の意義や魅力を効果的に発信するとともに、大会開催時の盛り上げにも活用
- ・東京2020大会を契機としたスポーツへの関心の高まりも踏まえ、より多くの方が気軽にスポーツに親しめるよう、都立公園陸上競技場などの施設改修を実施

◆様々な連携

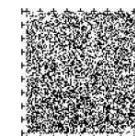
- ・「SusHi Tech Tokyo 2024」や区市町村、関係団体などと連携し、大会の魅力などを幅広く発信
- ・「パラスポーツの振興とバリアフリー推進に向けた懇談会（パラバリ懇）」において、両大会をテーマとした意見交換を行うとともに、懇談会メンバー（パラ応援大使）による大会関連イベントへの参加を通じて、幅広い層へ情報発信

【スケジュール】

	R5	R6	R7
大会やスポーツの盛り上げ		大会1年前の取組● → 広報PRツールを活用した発信	→ 都立公園陸上競技場などの施設改修
様々な連携		● SusHi Tech Tokyo 2024における発信など	→ 区市町村との連携（随時） → パラバリ懇・パラ応援大使による発信（随時）

【大会後のレガシー】

- スポーツへ関心を持つ人が増加し、継続的な応援や運動の実践、健康づくりなどに貢献
- デフスポーツを含むパラスポーツの振興や幅広いバリアフリーが更に進捗



Topic

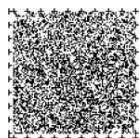
ユニバーサルコミュニケーションを体験し、
共生社会への理解を促す

みるカフェ

「みるカフェ」とは、デジタル技術を活用して言語を見える化し、きこえる・きこえないにかかわらず誰もがつながることができるカフェ。東京2025デフリンピック開会2年前の取組として、東京・原宿に期間限定でオープンしました。

カフェでは、音声をリアルタイムでディスプレイ上に表示する技術や、手話言語をテキストに変換する技術など、様々なデジタル技術を活用。

4,000名を超える方々にご来場いただくとともに、お越しいただいた方からは、「きこえる人に対しても、きこえない人に対しても優しい環境で、とても良かった」などのお声も届きました！



透明ディスプレイを使ったコミュニケーション

Topic

東京2025世界陸上・東京2025デフリンピック
それぞれの大会を象徴するシンボルマーク

大会のロゴやエンブレムを、子供たちと

34年ぶり、2回目の東京開催となる**東京2025世界陸上**。この大会ロゴのデザインコンセプトに、ジュニア陸上選手の大会への思いを反映。さらに、新たな歴史を皆さんとともに創りたい…そんな思いを込めて、ロゴデザインやロゴ選定委員を公募しました。ロゴは令和6年5月に発表予定。どのようなデザインとなるか、お楽しみに！

東京2025デフリンピックの大会エンブレムは、聴覚障害者・視覚障害者のための国立大学である筑波技術大学の学生がデザインを制作し、都内中高生の投票により決定しました。

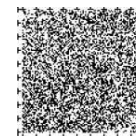
大会エンブレムは、人々の繋がりを意味する「輪」がテーマ。デフコミュニティの代表的シンボルである「手」を表し、デフリンピックを通して競技と話題に触れ、互いの交流やコミュニティが「輪」のように繋がった先には、新たな未来の花が咲いていくことを表現。花は桜の花弁がモチーフです。



東京2025世界陸上
ロゴデザイン・ロゴ選定委員の公募
(©2023一般財団法人 東京2025世界陸上財団)



東京2025デフリンピック 大会エンブレム



(参考) 大会の基本情報など

世界陸上競技選手権大会

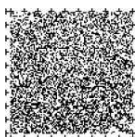
- ワールドアスレティックス (WA) が主催し、2年毎に開催
- 第1回は、1983年にフィンランドのヘルシンキで開催
- 2025年の大会は、20回目の大会
- 世界で約10億人が視聴、3,000名規模のボランティアが参加
- 東京での開催は1991年大会以来。日本での開催は2007年大阪大会を含めて通算3回目

東京2025世界陸上

開催期間	: 2025年9月13日～21日 (9日間)
種目の数	: 49種目
選手の数	: 約210か国・地域、約2,000人
競技を行う会場	: 東京・国立競技場 (マラソン、競歩は東京都内での実施を予定)
招致した団体	: (公財) 日本陸上競技連盟
大会運営組織	: (一財) 東京2025世界陸上財団

デフリンピック

- 国際ろう者スポーツ委員会 (ICSD) が主催し、4年毎に開催されるデフアスリートを対象とした国際総合スポーツ競技大会
- 第1回は、1924年にフランスのパリで開催
- 2025年の大会は、100周年の記念すべき大会。日本では初めての開催
- 手話言語のほか、スタートランプや旗などを使った視覚による情報保障が特徴



東京2025デフリンピック

開催期間	: 2025年11月15日～26日 (12日間)
競技の数	: 21競技 (陸上や水泳など)
選手の数	: 70～80か国・地域、約3,000人
競技を行う会場	: 主に都内会場 (サッカーは福島県、自転車は静岡県で実施)
招致した団体	: (一財) 全日本ろうあ連盟
大会運営組織	: (一財) 全日本ろうあ連盟 (公財) 東京都スポーツ文化事業団



ビジョン2025 アクションブック



令和6（2024）年1月発行

編集・発行 東京都生活文化スポーツ局国際スポーツ事業部国際大会課
〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電 話 03(5320)6224
E-mail S1120901@section.metro.tokyo.jp

